

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	ミャンマー政府・ミャンマー各少数民族武装勢力（以下総称してEAG=Ethnic Armed Groups）間で60年以上続いた紛争によって、社会的・経済的發展から取り残され、さらに国際社会からの支援が行き届きにくい状況にあった紛争被害者の安定的な生活の確保ができる再定住環境の整備に寄与し、ひいてはコミュニティ再建に向けた地域の復興と平和の定着に資することを目的とし、同時に復興計画から実施に至るまでミャンマー政府・EAG双方の同意・協力を得て行う事で、両者の一層の信頼醸成・協力関係の進展に寄与した。その成果を見て、更に新たにEAG2組織が停戦し、生活基盤整備に対する要望も出されてきている。
(2) 事業内容	本事業の目標は、無電化村における住宅の電化を実施し、設置された設備がより長く利用できるようメンテナンス関連の訓練も実施することとし、以下の通り、当初の目的通りすべて完了した。 (ア) 対象地域 ミャンマー カレン州内のKNUのBG-6支配地域の32村 (イ) 整備内容 BG-6支配地域の34村の4,133戸にソーラー発電により電力を供給した。 (ウ) 工事請負業者の選定 あらかじめBHNで「機材仕様書、工事仕様書」を公示し、これに対し12社が応札した。これら業者からはサンプル機材の提供を受け、各種機材の性能テストを行い州政府・KNUが出席する「選定会議」に、価格と合わせて性能テストの結果を提出し、その場でNawarat, AGTの2社が選定された。 (エ) 工事請負業者への指導、利用者への説明会等 昨年同様、工事業業には施工要領書を提示し、これに基づいて、実際に組み立ての演習も実施して指導した。 また、これまで電気に触れたことのない利用者がほとんどであることに鑑み、利用者に対しては「事前説明会」「完成検査」「モニタリング」の各段階で利用方法、特に雨期での対応方法など説明し相談にものってきた。 (オ) 今後のメンテナンスに向けた住民訓練 対象地域は殆どが交通不便な地域であり、簡単に修理者を派遣することが難しいことから、職業訓練もかねて、エリアを分けて若手の村民を工事業業者で8人採用してもらい、彼らをBHNで実地研修したうえで工事部隊に参加させることで、将来的に「村の電気屋さん」の役割を果たしてもらうべく育成した（＝「システムサポーター」として任命）

(3) 達成された成果	期待された成果についての達成度； 1. 住居への電力供給 要望のあった BG-6 の支配地域の村 32 村、4,133 戸に予定通りソーラー電力システムを設置し、最低限の照明が得られるようになった。設置完了したものから順次完成検査を行い、検査不良の修理が完了したのち、全工事の約 8.2%に相当する 325 戸に対してモニタリングを実施した。 2. 電力が供給された効果の検証 またモニタリングに合わせ、集会所等で村民への取り扱い説明・質疑なども実施し、モニタリングを行った 325 戸すべての住民から（生活利便性、安全、安心の向上が達成され）満足したとの回答を得た。（別紙モニタリング集計結果参照）さらに、機器の取り扱い方法については 99%が理解し、故障した場合の手配方法も 85%が理解していた。また、各村には最低 1 名のシステムサポーター（一般レベルの連絡員＝主としてヴィレジリーダー）、また、BG-6 エリア全体では 8 名のシステムサポーター（工事ができるアドバンスレベル）を配置し故障しても放置されず継続的に利用できる対策とした。
(4) 持続発展性	本事業により、平和構築の基礎となる、ミャンマー政府と EAG、さらに日本の支援組織との信頼関係が一層醸成され、コミュニティ再建・定住・発展に向けたニーズや課題に対して、3 者が協力して取り組むことで持続的な紛争被害者支援を行う体制が進展してきた。 本事業で設置された設備は、適切な利用方法を守り、バッテリーの寿命（およそ 3～4 年）に合わせて交換していけば、継続的な利用が可能である。そのために①故障対応、あるいは移設工事などに対応できるよう、対象地域の住民の中から「システムサポーター」として 8 名を選び、BHN から基礎知識を教育したうえで、工事業者のチームメンバーとして実際の工事に従事させることで経験を積ませたうえで、将来のメンテナンス工事要員として配置した。②設備の適切な利用方法についても、設置工事の際、完成検査の際、モニタリングの際などに、繰り返し指導し、それらの注意事項はイラストにして設備に添えた。③バッテリーの交換が必要になった際の対応方法についても、住民にはコストがかかることを説明し、施工業者、システムサポーターに対しては、住民からの要望に適切にこたえるよう指導した。